

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 吉武信彦	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>以下の研究活動を行なった。</p> <p>(1) 著書</p> <ul style="list-style-type: none">・共同執筆、「冷戦時代とノルディック・バランス」、「北欧会議・北欧閣僚会議」山本健児、平川一臣編『中央・北ヨーロッパ（朝倉世界地理講座——大地と人間の物語9）』朝倉書店、2014年7月、91～94、135～139頁。・共著、「ノーベル賞の国際政治学——ノーベル平和賞研究の課題」岡沢憲英編『北欧学のフロンティア——その成果と可能性』ミネルヴァ書房、2015年1月、282～296頁。 <p>(2) 論文</p> <ul style="list-style-type: none">・「ノーベル賞の国際政治学——ノーベル平和賞と日本：1960年代前半の日本人候補」『地域政策研究』（高崎経済大学）第17巻第2号、2014年11月、1～23頁。・「ノーベル賞の国際政治学——ノーベル平和賞と日本：第二次世界大戦後の日本人推薦者」 <p>(1) 『地域政策研究』（高崎経済大学）第17巻第3号、2015年1月、1～14頁。</p> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none">・討論、「篠田武司氏報告『スウェーデンにみる移民と社会的包摂・統合』、小川有美氏報告『バック・トゥ・ザ・フューチャー——北欧デモクラシーと包摂への歴史政治学的問い』、岡沢憲英氏報告『グローバリゼーションの《包摂力》《排除力》』」、共通論題「北欧諸国における社会的包摂の現在——欧州議会選挙結果を踏まえて」、北ヨーロッパ学会第13回研究大会、立教大学、2014年11月8日。・九州 EUIJ『EUIJ-Kyushu Review』の論文査読。・北ヨーロッパ学会『北ヨーロッパ研究』の論文査読。	
<p>2 その他の事項</p> <p>特になし。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>研究活動では、フィールドワークに基づいた研究を継続し、研究を深める。</p> <p>教育活動では、レポート、小テストなどを利用し、学生の理解度を確認しつつ、実力を伸ばせるよう一層努めたい。</p>	